



令和4年度 土木学会選奨土木遺産が認定されました!

「土木の日」(11月18日)にちなみ、毎年11月に記念講演会とともに開催される「選奨土木遺産認定書授賞式」(主催:公益社団法人土木学会北海道支部)。ここでは授賞式で顕彰された令和4年度の北海道の選奨土木遺産について受賞理由などをご紹介します。土木学会選奨土木遺産委員会により本年度は全国で23件、北海道では以下の3件が認定されました。



室蘭港港湾施設群(室蘭市)

【受賞理由】室蘭港港湾施設群は、東洋一の石炭積出港として我が国の近代化と鉄の街の飛躍的發展に貢献した港湾の歴史と技術を伝える構造物群です。

旧大黒島灯台、南北防波堤、本輪西ふ頭、北日本ふ頭、旧国鉄・旧北荷ふ頭、北外防波堤(ケーソン流用部)[1926(大正15)~1967(昭和42)年度]。北海道初となるケーソン式岸壁やプレバッドコンクリート等、多くの技術的挑戦を物語る港湾遺産群です。



標津橋(標津町)

【受賞理由】標津橋は、アーチリブにフィレンディール構造を持つ国内唯一の橋梁形式で、戦後の北海道の土木技術の発展に寄与した土木遺産です。

1962(昭和37)年竣工。フィレンディール構造をとる二重アーチリブの形状は世界的にも例がなく、斬新かつ美しい。同構造は高次不静定になり、この橋では14元の連立方程式を解かねばならず、大型コンピュータを北海道で初めて橋の設計に用いました。



旧茂喜登牛水路橋(足寄町)

【受賞理由】旧茂喜登牛水路橋は、PC技術黎明期に建設した当時国内最大クラスのPC桁であるとともに、約60年間以上北海道の電力安定供給に貢献した水路橋です。

1958(昭和33)年竣工。全長274mの国内最大クラスのコンクリート水路橋で、2017年(平成29)の解体後も1連(長さ30m、桁高2.3m、重量81tの桁4本)を残置。Non-AEコンクリートでも凍害劣化が少ない等、PC構造物の長期耐久性に基礎資料を提供しています。



第22回「野生生物と交通」研究発表会のお知らせ

第22回「野生生物と交通」研究発表会を札幌市で開催いたします。野生生物と交通に関心を持つ多くの方のお申込み、ご参加をお待ちしております。詳しくは、ウェブサイト(<http://www.wildlife-traffic.jp/>)をご覧ください。

- ◆開催日: 2023年3月3日(金) 10:00~(予定)
- ◆会場: 札幌コンベンションセンター 中ホール
(札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1)

- ◆論文発表: 受付は終了しました
- ◆パネル展示: 無料[締切:2023年1月20日(金)]
- ◆聴講: 無料[締切:2023年2月21日(火)]
- ◆懇親会: 4,000円(予定)[締切:2023年2月21日(火)]
- ◆講演論文集: 2,500円(開催当日発売)[予約締切:2023年2月21日(火)]
- ◆申込方法: ウェブサイトの申込フォームまたは右記のQRコードよりお申込みください。

※論文発表・パネル展示・会場での聴講(定員200名)・懇親会(定員50名)はお申し込みが必要です。
※オンラインでの聴講はお申し込み不要です。

お申込み・お問合せ:

(一社)北海道開発技術センター「野生生物と交通」研究発表会担当係(担当:鹿野・向井)
TEL: 011-738-3363 FAX: 011-738-1890
E-mail: wildlife@decnet.or.jp ウェブサイト: <http://www.wildlife-traffic.jp/>

「野生生物と交通」
ウェブサイト



新型コロナウイルス感染拡大等の状況により、変更になる場合があります

編集後記

あけましておめでとうございます。今年もdecマンスリーをどうぞよろしくお願いいたします。昨年は大雪からスタートでしたが、今年はどうなるのでしょうか。札幌市さんでは大雪時の対策を大きく変えられ、開発局さんと道路の除排雪に関する協定を結ばれたので大変心強いですね。日常はみなさんの力で支えられている!感謝しかありませんね!路駐、ダメ絶対。(MK)



dec monthly

2023.1.1 vol.448 デックマンスリー



● Monthly Topic (マンスリートピック)

〈寄稿〉世界水準の観光地の形成に向けたセミナーin岩宇

新年のごあいさつ>>> 一般社団法人 北海道開発技術センター 会長 田村 亨

新型コロナウイルスによる感染拡大は4年目を迎えています。欧米ではアフターコロナを見据えた未来への投資が始まっており、わが国でも人の重要性、科学技術・イノベーション力の強化、新たな付加価値の創造、カーボンニュートラルとデジタル化の動きが加速しています。

この4つの動きの中で分かりにくいのが「人の重要性」です。皆さんは「ゲームチェンジ」という言葉を聞いたことがありますか。例えばビジネス界では、世界の携帯電話市場の4割を占めていたノキアがスマホの出現によって市場から退場を余儀なくされた変化です。わが国の政府資料にこの言葉が使われたのは2016年の第5期科学技術基本計画からだと思います。そこでは、行政が旗を振って「みんなで同じ方向を向いて協力してやろう」という、これまでの目標設定や進め方が崩れつつあるとされました。では、これからどうするのか。人には家庭があり仕事があり、その間にソーシャルがある。各個人が主体的に未来を築いて行くには、これらの家庭や仕事場、ソーシャルの集まりの中で膝詰め合って議論し、コンセンサスを取りつつ、次の時

代のために必要な方向性を見つけて行くしかありません。社会のゲームチェンジには、人の新しい知識や価値を生み出す創造力や好奇心が大切で、人の「のめり込む力」が重要になるのは間違いありません。

北海道の活性化においても、多様なソーシャルの集まりが自然発生的に生まれてくるのが期待されています。ソーシャルの集まりは舞台に例えられます。舞台回しや楽屋の整理、お囃子や幕の上げ下げのような重要な仕事は誰がするのでしょうか。頼まれればちょっとした脇役や端役もこなすかも知れません。それが dec (北海道開発技術センター)の役目だと私は思っています。dec は2023年4月を以って40周年を迎えます。これまでの成果を振り返り、ともに歩んでいただいた方々とともに、北海道の未来を考える行事の実施を考えております。

2023年度には第9期の北海道総合開発計画が策定され、dec は「雪や寒さと共に暮らすための調査・研究」などをとおして北海道の発展に貢献していく所存です。今年も皆様のご指導とご支援をよろしく申し上げます。

明けましておめでとうございませす。
今年もどうぞ宜しくお願ひ申し上げませす。



📍 基調講演

観光地域づくりにおける連携の重要性

矢ヶ崎 紀子 氏

[国土交通省国土審議会 北海道開発分科会 特別委員
(東京女子大学 副学長 現代教養学部 国際社会学科 教授)]



旅行者は近くから頻度高く訪れますが、近さというのは、物理的な距離のみならず、交通の便の良さ、互いの文化の類似度や経済のシステムが似ている等も挙げられます。近くからの旅行者は、滞在日数は短く、消費額も高くはありません。遠くからの旅行者は、人数は多くはないですが、滞在日数が長く、消費額も高いです。観光を営んでいく場合には、近くのお客様と遠くのお客様を上手に組み合わせていくことが大事です。

近くからの旅行者は、地域で誘客が可能で道筋もつけやすいですが、遠くからの旅行者を誘客できる観光地は限られます。この地域は、ニセコ町や倶知安町が遠くからの旅行者を誘客できる地域であり、どうやって連携していくのか地域ぐるみでの取り組みが必要だと思います。

2019年のデータでは、訪日外国人の旅行目的

の7割強が観光・レジャーで、その他(VFR*含む)は1割程度。海外に他に良い観光地があればみんなそちらへ旅行してしまうため、不安定な旅行需要になっています。

イギリスでは、観光・レジャーが4割、VFRが3割で旅行需要が安定しており、コロナ後にイギリスとアメリカ間の航空便がいち早く回復しました。これは大事な人が大丈夫かお互い会いに行っているからでしょう。

VFRの旅行需要の形成においては、その人に届く言葉や、その人のことを想って接すること、さらに、地域に根差す生活文化が重要で、皆様方の生活文化や日頃の暮らしを、外から来られる方に少しだけお裾分けして欲しいと思っています。生活文化が伝わると、その地域のファンになります。人と人の関係を紡いでいく関係作りが、今観光でも注目されているのです。

※帰省・知人訪問



📍 事例発表1

地元の活動があってこそ気が付いた
広域連携の大切さ

池本 美紀 氏[民宿「きのえ荘」女将/しりべし女子会(しり女) 会長]

神恵内村は現在人口が790名、高齢化比率は44.5%で全道25/179位の村です。

神恵内村の村外に出たことのある仲間から聞いて初めて、神恵内村の元気の無さに気が付きました。そこで「村への恩返しができないか」と平成24年9月に「神恵内村魅力創造研究会」を設立し、平成29年度に「地域げんき大賞」(北海道新聞社)を受賞しました。しかし、地域で活動する上で、神恵内村のみでは限界があると感じました。今後は近隣の町を周遊し、楽しんでもらい、その日の宿泊地には神恵内村を選んでもらうということを考えています。

平成28年6月には「しりべし女子会」(しり女)を設立。それぞれの地域で様々な役割を背負いながら地域のことを発信している人たちと繋がっていけば、北海道新幹線が延伸してきた際に後志全

体の底力になるのではないかと考えたのがきっかけで、現在は、8町村9名で活動しています。

「しりべし女子会」では、まずは「自分たちが後志を知る」べく、1年目は様々な地域に足を運び、その地域に伝わる伝統文化を体験、2年目は「地域の方々と繋がる」べく、「しり女オススメMAP」やホームページの作成を行い、様々な団体の方との意見交換などを行いました。

ある時お客様から言われた「その地に住む人間が毎日真剣に考えなければ気付きはない」という言葉が印象に残っています。人口800名規模の村で出来ることは限られているため、1人1人の力が本当に大切で、その言葉を胸に刻んで日々を過ごしています。地域を活性化するには、活性化する人間自信が元気である必要があるため、常に元気に自分らしく暮らしていこうと思っています。

北海道総合開発計画に掲げる世界水準の観光地の形成の実現に向けた取り組みについて、地域の方々と意見交換を行うため、平成29年度からセミナーを開催しています。令和4年度は9月13日に泊村のホテルカルチャーヴィレッジ泊において、観光地域づくりにおける連携の重要性等について意見交換を実施しました。

※岩内町、共和町、泊村、神恵内村



国土交通省 北海道局 参事官付 主査 吉良達也 氏

〈寄稿〉世界水準の観光地の形成に向けたセミナーin岩宇

※ Gan-wu

📍 事例発表2

観光と連携を通して学んだ地域力と、
地方の観光の可能性

目黒 沙弥 氏[(株)IWANAI UNITED 代表取締役]



昔からの夢だった世界一周の旅を2回と日本縦断ヒッチハイクの旅をしました。

世界二周目の旅の最中、IWANAI RESORTのCEOから電話があり、岩内の魅力を聞かされ、帰国後に訪れた際に求めていたものがあったことに気が付き、衝撃を受けました。そこで、旅人目線でも岩内の良さを伝えていきたいと思い、平成30年6月に旅行エージェント「IWANAI UNITED」を設立しました。扱っている岩宇地域のツアーコンテンツは、地元の方からすると特別感がないと言われるものが多いですが、岩内の飾り気のない日常そのものが観光客の方々が触れたい本物の魅力なのではないかと感じています。

以前訪れたベトナムでは現地の子供達とずっと一緒に遊んでいました。その後は当時

遊んでいた子供から結婚の連絡を受けて会いに行ったり、自分の親も連れて行ったりして交流が続いています。地域に好きな人が増えるほど、その地域が魅力的に見えるもの。何も無い場所でも素敵な方に出会うとその場所が輝いて見え、それが世界水準の観光地への第1条件ではないかと思っています。

また、地域間の連携のみならず、次世代への連携も非常に大切です。連携はバトンを渡していく作業だと思っており、情熱を持って仕事をする大人を見て、若い人たちに何かを感じ取ってもらうことが重要だと思います。

若い人には経験をたくさんしてもらい、若い人たちが外に出て戻ってきた際の受け皿を我々の世代が作っていくことが、世界水準の観光地づくりに繋がるのではないのでしょうか。

🗨️ 会場からのご感想

〇札幌出身で岩内町に来て10年が経ちますが、学生時代に来た際に町の方の優しさに触れた経験があり、自身も繋がりを求めて岩内町に来たのだと改めて気付かされました。皆様の活躍に頼るだけではなく、我々行政も1人のキーマンになれるよう、これから様々な情報交換等をさせていただき、岩宇地域、さらには後志の発展に向けて改めて頑張らなければならないと感じています。

〇大学で観光学を学んでいますが、社会に出て働き始めたら、まずはファンを作りなさいと言われる。それは日本のホスピタリティやおもてなしのことと思っていました。しかし、本日のVFRや「しり女巡り」、ベトナムの子供と遊んだ記憶などの話を聞き、それらが全てファン作りに繋がるのだと理解することができました。

総括

矢ヶ崎 紀子 氏

「世界水準」の意味を岩宇地域内の話に読み替えていただきたいと思います。旅は、人生において人間が暮らししていく中で、それも豊かに暮らししていくために、なくてはならない活動です。旅は人生の大切な要素だと感じている方々から評価されるということが、「世界水準」という意味なのだと思います。皆様方の持っている資源や素敵な人々、そのような方々が受け入れるターゲットは恐らく旅を人生の中の大切な一

部だと思っていて、旅を大事にしているからこそ、訪れた地域もそこで会った人々も大切にしてくれるのだと思います。

単なる消費行動に留まらず、お互いの中で尊敬・敬愛の念が生まれ、そして、また来たい、自分の大切な人を連れてきたい、といった結果に繋がります。そのような旅の構造がここ岩宇地域で実現するということ「世界水準」なのではないだろうかと思いました。

当該セミナーの詳細は国土交通省ホームページをご参照ください。

https://www.mlit.go.jp/hkb/hkb_tk7_000083.html

